



発行日 2001年5月25日 第8号  
発行 札幌歯科医師会立口腔医療センター  
〒064-0807 札幌市中央区南7条西10丁目  
TEL (011)511-7774 FAX (011)511-1530  
<http://sasshi3.pobox.ne.jp/>  
E-mail [sasshi@tky2.3web.ne.jp](mailto:sasshi@tky2.3web.ne.jp)  
発行人 小林重行 発行責任者 鶴岡一彦

## ☆平成12年度口腔医療センター第1回所員・担当医研修会開催☆



企画研修部部長 中澤潤

11月20日（月曜日）札幌歯科医師会館において口腔医療センター第1回所員・担当医研修会が開催されました。今回は講師に国立特殊教育総合研究所病弱教育研究部部長原仁先生をお迎えして「広汎性発達障害児への理解と対応」—自閉症児を対象に—という演題でご講演いただきました。

自閉症は社会的関心の高まり、発見技術の進歩により、もはや極めてまれとはいえないようになりました。しかしながら自閉症に対する間違った認識や考えのため、正しい対応や支援がなされていないことが少なくありません。口腔医療センターではこれまで平成11年2月に横浜市総合リハビテーションセンターの清水康夫先生を、平成12年3月におしまコロニー星が丘寮の寺尾孝士先生をお迎えしてご講演いただき勉強してまいりました。

今回は特にわれわれスタッフが自閉症児の歯科治療に際して適切な対応ができ、安心して治療を受けてもらうための基礎的な知識を研鑽するためこの講演を企画しました。講師の原仁先生は小児神経科の日本の草分け的存在で自閉症を含む種々のタイプの発達障害児の早期診断と早期療育に関する臨床と研究をなさっておられます。大雪の翌日でみぞれが降るという悪天候にもかかわらず所員、担当医、一般会員、スタッフ合わせて53名の参加があり、その関心の高さをうかがわせました。鶴岡一彦札幌歯科医師会会长と小林重行口腔医療センター所長の挨拶の後、蓑崎健三郎口腔医療センター担当理事の講師紹介に引き続き講演が始まりました。以下は講義内容を簡単にまとめたものです。

### 1. 広汎性発達障害とは

自閉症及び自閉症に類似した一群の症候群をいいます。精神遅滞など重い障害を示す人から一見正常に見えるがある一面で症状を示す高機能自閉症までその障害の程度は個人によって実にさまざまです。

### 2. ビデオ供覧

ここで初心者にも理解しやすいように自閉症の子供の実際の様子を撮影したビデオの上映がありました。ビデオでは自閉症とは異なった発達障害の一つのダウン症も取り上げられており、この二つの障害を比較することで両者への理解を深めることができました。

ダウン症は21番目の染色体異常が原因とされるものが95%を占め、700人ないし1000人に1人の確率といわれています。主な症状は精神遅滞、身体発達障害、特有な顔形、手指の異常があげられます。他に先天性心臓病、難聴、視覚障害、消化器異常を伴うこともあります。性質は社会性が保たれ、ひょうきんで人なつこい、言葉や計算は苦手だが日常生活動作は比較的良好である。リズム感がよく音楽が好きであるという共通点があります。手足の緊張が弱く歩行開始は2歳頃と遅れるがマヒはありません。早期療育、合併症の治療計画、定期健康診断、事故の予防などが重要です。

自閉症は1943年アメリカのレオ・カナーが報告したのが最初で①人への反応や関心の乏しさ、②言葉の発達に遅れや問題がある、③興味や関心が狭く、行動がパターン化しやすいなどの特徴があり、4対1で男子に多いとされています。自閉症より症状が明確でないものを広汎性発達障害といい1000人に数人の確率といわれ、脳機能の成熟の障害と考えられていますが詳しいことはわかつていません。

### 3.自閉症の診断

自閉症の診断とその理解には3つの次元があります。すなわち障害構造を①行動レベル、②心理学レベル、③生物学レベルの3層構造で考えるものです。

①行動レベル　自閉症では行動障害が診断根拠となります。行動障害としては次のような基本症状があります。

- a.相互的な社会関係の質的障害：他人と相互的なやりとりができない。
- b.コミュニケーションの質的障害：言葉の意味、他人の意図することが理解できない。
- c.行動や興味の対象、活動性の内容が狭く反復的かつ常同的である。  
(a. b. c.を自閉症診断の3本柱といいます。)
- d.感覚の異常、多動など：さわられることがいやである。ある匂いが我慢できない。

②心理学的レベル　1.で示されたような行動障害をおこしてしまう原因を心理学的レベルで考えようというものです。原因を認知障害とする立場と情緒障害とする立場があります。ではなぜそのような障害が生じるのかを説明しようとすると脳機能レベルで障害を考える必要がでてきます。

③脳機能障害レベル　心理的レベルの障害が脳のどの部分に障害が生じた結果なのか考えようというものです、現在のところ部位、原因ともによくわかつていません。最近では胎児期のウィルス感染説、ダイオキシン原因説なども研究されているそうです。

### 4.心の理論（Theory of Mind）

研究者の中には心の理論の障害が自閉症の原因ではないかという立場をとる人々がいます。心の理論とは「他者が自分とは異なった考え方を持つ存在であることを認識する能力」をいいます。すなわち認知障害や情緒障害を心の理論の障害で説明しようというものです。現在は心の理論だけでは説明がつかない症例が存在することがわかったため、自閉症研究の中心からははずれているそうです。しかし心の理論の研究は自閉症の訓練を180°変える転機を作りました。それは心の理論をわかるようになることは不可能なのだからまず彼らの心のあり様を理解し、その上で一般的の行動や心のあり様を理解してもらうようなやり方を採用することです。

## 5.自閉症と脳機能障害

精神遅滞を合併することは全体の 70 から 80%にみられます。てんかんの合併が 20 から 25%にみられます、思春期におこることが特長です。その他脳波異常は 30 から 50%にみられ、高セロトニン血症が 30 から 40%にみられます。

## 6.広汎性発達障害の種類

広汎性発達障害には次のようなものがあります。

- ①自閉性障害：いわゆる自閉症である。
- ②レット障害：女児に限って報告され非常にまれである。
- ③小児期崩壊性障害：4、5 歳から発症する自閉症。
- ④アスペルガー障害：言葉の遅れがあまりない自閉症。オーストリアのアスペルガーが 1944 年に報告。当時は自閉的精神病質という言い方をした。折しも第二次世界大戦中だったため米英の研究者からは無視されたがウイングによって高機能広汎性発達障害として再発見された。(1981)
- ⑤特定不能の広汎性発達障害（非典型自閉症を含む）：自閉症ほど障害がはっきりしない。

## 7.自閉性障害の社会的相互関係について

自閉症児の社会的相互関係での障害は様々なかたちでみられます。それぞれの間にはっきりした区切りがあるわけではないのですが、ウイングはこれを次のように分類しています。

- ①孤立型：こちらからの働きかけを拒否。自分からもかかわらない。
- ②受動型：言われるままである。働きかけは受け入れる。自分からはかかわらない。歯科治療は比較的しやすいタイプである。
- ③積極奇異型：働きかけを拒否。自分からは勝手にかかわる。歯科治療において最も困難が予想されるタイプである。

## 8.歯科治療と自閉症

原先生が一般の歯科診療所から問い合わせを受けるもので最も多いのは麻酔の可否だそうです。もちろん特別の全身疾患がない限りなんら問題ありません。むしろ積極的に麻酔をして痛みを感じさせないように努めるべきです。自閉症の人は記憶が非常によいという特長があります。もちろん恐怖感やいやな思いもはっきり残ってしまいます。それも写真で写したようにその場面が鮮明に記憶に残るため、それが蓄積されるとそれが今まさに目の前で起こっているように思い出され（フラッシュバックといいます。）パニックを起こしてしまいます。従ってできるだけ恐怖心を植えつけないように、痛みを与えないよう注意を払うことが重要です。また多動については薬物治療が有効です。

自閉症の場合治療ができるようになるまでしばしば長い時間がかかります。それはわれわれ歯科医がかれらを理解するのに多くの時間がかかるためです。パニックをおこしても平静に長い目で見守る姿勢が必要です。講演の後もたくさんの質問があり、熱心な雰囲気の内に講演を終了しました。今回は受講対象をセンター所員、スタッフ、一般会員としましたが講演終了後早くも市民公開講座にして原先生の御講演を聴講できるように企画して欲しいという声が多数あり前向きに検討していくことになりました。

多くの自閉症の人達が医療機関を受診しにくいことで困っています。自閉症の特性である感覚の過敏さや、何をされるか分からぬことへの恐怖、極度のこだわりなどが原因で、診療所にすら入れない人達もいます。

口腔医療センターでは恐怖を取り除き、安心して治療を受けることが出来るように新しい試みをどんどん取り入れようとしています。その取り組みが佐藤哲平さんのご両親が開設されているホームページや、佐藤さんが参加された「第83回日本小児精神神経学会」において紹介されましたので、その一部を掲載致します。



## テピ日記 2

Last updated 19 April 2000 by Yutaka

【2000.4.19】

ある所で、歯科治療に関する視覚支援について書いた記事について、ホームページでも紹介して欲しいと、複数の方からお願いされました。そこで、1998年10月21日に遡って、以下に転載することにしました。

1998/10/21

今日、とても嬉しいことがありました。

長男のテピ（14歳）は、未だに歯の検診が苦手です。検診用の内視鏡（っていうのかな？）を口に入れられるのも嫌がって猛烈に抵抗します。そんな状況の中で、10年来のおつきあいのある歯科衛生士さんが、見事なブレイクスルーを今日、してくれました。

この歯科衛生士さんは、待合室から診察室へ入ってそこで検診を受ける一連の過程をビデオカメラでテピの目線に合わせて予め録画していたのです。そして、テピの順番がきたとき、待合室でビデオカメラの液晶モニター上でそれを再生し、テピにこれらから何をするのか見せました。

これが期待以上の効果を上げたのです。テピは落ち着いて診察室に入って診察台の上に横になり、内視鏡を口に入れることを受け入れました。ちなみに前回は、診察室の模様替えがあったため、テピは大暴れして入室することすら拒否でした。

この歯科衛生士さんは、とても勉強熱心な方で、最近行われた障害者歯科の学会に参加し、そこで横浜市総合リハビリテーションセンターの清水康夫先生の講演を聴いて、このアイディアを思いついたそうです（清水先生はビデオではなく写真で歯科治療の一連の過程を示す方法を紹介したそうです）。この歯科は、札幌歯科医師会口腔医療センターです。新しい試みをどんどん取り入れようとしているセンターで、センターに来なくても地元の歯科で安心して障害者が歯科治療を受けられるよう、「障害児者歯科診療ネットワーク」を最近、開設しました。このセンターは、ホームページも公開しています。

（後日談）テピは虫歯はないのですが、歯の生え方に問題があり、治療を必要としていました。私たちは、本格的な手術による治療を望み、全身麻酔による治療を行っていただきました。このときも、同様の視覚支援により、大きな混乱もなく、手術を終えることができました。今でも、定期的な歯科検診の度に、視覚支援をしていただいている。

佐藤さんのホームページアドレス：<http://execpc.com/~ysato/index.html>

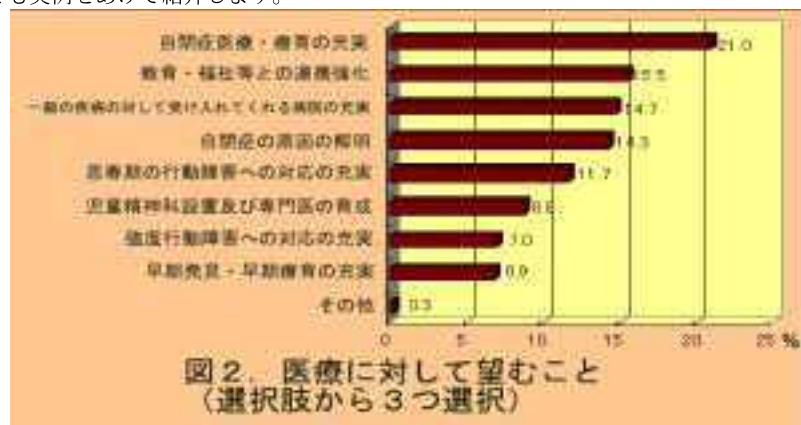
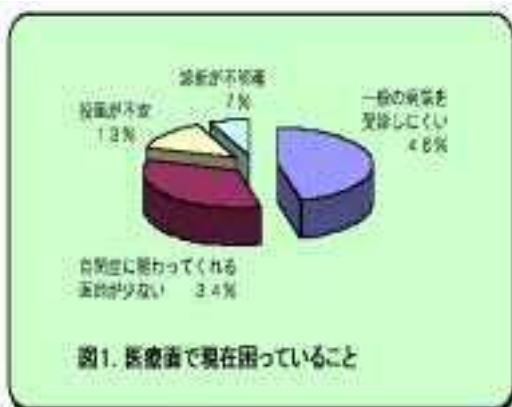
# 自閉症医療に望むこと

日本自閉症協会北海道支部  
札幌自閉症児親の会

ぽふら会



現在は自閉症児の全員就学が実現し、専門家など関係者の努力により、自閉症研究も少しづつ進んできています。しかし、なお依然として自閉症の原因・治療方法や教育方法、また自閉症児・者への生涯に渡る支援体制などは確立されていません。ここでは、自閉症児とその家族が医療面でどのようなことで困っており、また何を望んでいるのかについて紹介します。また、歯科治療や学校の健康診断で試みられて成果をあげている「視覚支援」についても実例をあげて紹介します。



自閉症児（者）の地域生活支援システムに関する研究—自閉症児（者）を持つ家族へのアンケート集計報告（日本自閉症協会「心を開く」No.26、1998年2月8日発行）より

## 医療・教育・福祉の連携

多くの自閉症の人達が一般的の病気を受診しにくいで困っています(図1)。自閉症の特性である感覚の過敏さや何をされるか分からぬことへの恐怖、極度のこだわりなどが原因で、診察室にすら入れない人達もたくさんいます。私たちは、このような障害特性を持つ自閉症の人たちが混乱なく受診できる一般の病院がひとつでも増えくれることを強く望んでいます。そのためには、自閉症を正しく理解し、一般の病院の医師に対して適切なアドバイスを与える専門家の存在が欠かせません。このような専門家には、医療面に限らず、教育・福祉分野に対しても、自閉症の正しい理解を促し、適切な支援方法について助言して欲しいと願っています(図2)。自閉症と診断しても、適切な療育や教育につなげることができなければ、ただのラベル貼りでしかありません。医療・教育・福祉の連携があってはじめて、自閉症の人たちの生涯に渡る支援体制の基礎が整うのです。

### 実践例1. 心電図をとるための視覚支援



自閉症の人は、「いつ」、「どこで」、「何を」、「どれくらい」、「どうやったら終わりで」、「終わったら何があるのか」について分かれば、混乱なく自立的に活動することができます。また、自閉症の人は、話し言葉よりも、視覚的な手がかりの方が、意味を理解できます。ですから、活動の見通しを文字の分かる人には文字で、分からない人には具体物・写真・絵などで確実に伝えることが重要です。左の図は、札幌養護学校高等部の安井真紀子教諭が、生徒の心電図をとるために、上述の情報を目で見て分かるように描いた絵カードです。この視覚支援により、これまで今までパニックをおこしていた生徒が混乱なく心電図をとり終えることができました。

資料提供：北海道立札幌養護学校高等部教諭・安井真紀子

### 実践例2. 歯科治療のための視覚支援

札幌歯科医師会口腔医療センター障害者診療部の歯科衛生士、横濱峰二子さんが考え出した方法は、ビデオ撮影と絵カードを組み合わせたものです。自閉症の人が来院すると、待合室で待っているところがら、その日に受ける予定の検診や治療の一連の過程を患者の目線でビデオに収めます。この撮影されたビデオを診察室に入る直前に見ることで、自閉症の人は、今から「どこで」、「何を」、「どれくらい」、「どうしたら終わるのか」ということを知ることができます。横濱さんは、さらに、その日使う診療器具をスケッチしておき、要所要所でその絵を見せて視覚支援をさらに確実なものにしました。この方法により、パニックを起こして診察室にすら入れなかった自閉症の子どもが、今では何の抵抗もなく診療を受けています。同センターは、地元の歯科でも安心して障害者が歯科治療を受けられるよう、「障害児者歯科診療ネットワーク」を開設しています。



治療器具のスケッチ例。これらを順番に並べて提示する。



## 癒される場所

大崎真希子さんのお母さん 大崎 康子さん

よく泣く子だ…わが子ながらそう思っていました。部屋中にひびきわたるような大声で泣きわめくのです。側で、汗まみれになる彼女の着替えを持って待っている身としては申し訳なさでいっぱいでした。あれから何年の月日が流れたでしょうか。口腔歯科センターとのおつきあいは、開設以来なのです。いつの頃からか娘は泣かなくなりました。そして、お医者様に自分で訴えたり、お話を聞くようになりました。家に帰っては得意気になって報告したりするのです。最近ではどうも歯医者に行くのが楽しみなようです。変われば変わるものだと思います。

歯科センターの魅力はその優しい雰囲気にあると思います。すべてを受け止め、包み込むような優しさに溢れているのです。その場の雰囲気というものにとても敏感な子供達を安心して治療を任せられる空気があるのです。

また、今となっては違う道を歩むようになった古い友達、そんな人に会う事もあるのです。そんな時は昔話に花を咲かせ、お互いの今を報告しあい、励ましあい、又の偶然を楽しみに別れていくのです。

最近よく「癒す」という言葉が使われますが口腔歯科センターは、まさに私達親子にとって「癒される場所」のような気がします。溢れんばかりの優しさ、古い友人に会えるかもしれない楽しみ、懐かしさ…今までくつろいだ気分になって、子供が治療を終えて帰る頃にはすっかり元気になっているのです。多分私は、自分で運転する事が可能な限り娘を連れて、癒しを求めて、ここに通い続けているのではないかと思います。

## 憲暢と焼のり



太田憲陽さんのお母さん 太田 由美子さん

息子憲暢（23才）が整肢園に通っていたころ息子の先輩の子から「のり君って、のりを食べるからのり君なの？」と聞かれたことがあります。

思えば、息子と焼のりとのつきあいは20年近くになります。出会いのきっかけは生後2ヶ月で発症した点頭てんかんの治療としてケトン食療法を始めたことにあります。憲暢に制限されたカロリーや糖分、エネルギー源は脂肪という献立の中でノンカロリーの焼のりは食いしん坊の息子のおやつとして貴重な存在でした。ケトン食療法を断念してからも焼のりは息子の食事に欠かせないものとなりました。その理由の一つに「のりのブー」と呼ばれていた体型へのダイエット効果。二つめは何時でもどこでものりで巻くと手で持て食べれるという利便性。三つめは御飯などあまり噛まないで飲み込んでしまうのですが、のりで巻くと良く噛んでくれるという咀嚼効果です。他に散髪をしても2週間もしないうちに生い茂るように成長著しい髪の毛、近頃一段と濃くなってきた髭にも案外効果が及んでいるのではと思ってしまいます。

先日、作業所の職員に「お母さん、ポテトサラダを焼のりで巻くと美味しいのを知っていますか？」と言われたことがあります。息子が文句を言わずに食べててくれるのをいいことに噛む事ばかりの囚われて、味見もしないで何でものりで巻いていたことを反省させられました。

そして私自身も健康と美容のために（寂しさと豊かさのバランスをとりたい…？）息子と一緒に大いに焼のりと親しんでいるこの頃です。「今からじゃ遅いよ～」と息子の目が笑っていますが…。

# 障害者診療部のドクター紹介

障害者診療部の新しい所員です。よろしくお願ひします！



たにわき  
谷脇 明宏 先生

障害者の治療は慣れていないので  
緊張しますが、歯科麻酔の立場から  
頑張っていきたいと思います。



いわでら  
岩寺 環司 先生

どちらかというと専門は小児歯科  
です。よろしくお願ひ致します。

<次号に所員紹介パート2を掲載します>

## 投稿コーナー



あきちゃん（苅谷昭吉くん）の折紙傑作選です。ぱるす第5号に続いてご投稿いただきました。  
小さな折紙の1枚一枚が、あきちゃんによって表情豊かな動物などに生まれ変わるのが、よく分かりますね。

この折紙は「サンパピエ」という文房具店（中央区北3条西1丁目 TEL 271-0203）に展示されています。

「ぱるす」編集部では、皆様からのご投稿をお待ちしております

# お 知 ら せ

## 障害者診療部の診療時間が変わりました

### 診療時間

月曜日	14:00～17:00
火・水・木・土	9:30～12:30 14:00～17:00
金曜日	9:00～12:30 (全麻下診療のみ) 14:00～17:00
休診	日曜日・祝日・年末年始

障害者診療部は完全予約制になっております。

診療ご希望の方は、下記の時間帯にお電話にてご予約ください。

月～金曜日 9:30～12:00

電話番号 (011) 512-9497

---

### ☆ 救急診療部からのお知らせ ☆

夜間の歯の痛みなど、救急処置を目的としています。継続的な治療は受けられませんのでご注意ください。

### 診療のご案内

診療時間 19:00～23:00

年中無休

電話番号 (011) 511-7774

※必ず保険証をご持参ください。

---

### 編 集 後 記



”ぱるす”は今年度より春（5月）、夏（7月）、冬（12月）の年3回発行していくことになりました。みなさんどんどん記事をお寄せください。文章だけでなく絵や工作、写真でもOKです。

ぱるす編集長 中澤 潤